2021 年 1 月 13 日

本学大学院博士後期課程 3 年生山田直子先生（健康学科助教）を筆頭に、野井真吾先生が共著者である資料（タイトル：家庭の経済，文化，社会関係，時間的背景と子どものむし歯被患率および肥満・痩身傾向児出現率との関連性）が『こども環境学研究』に受理されました。

近年，経済的な状況などの人が健康に生きていくための種々の資源を資本と捉え，経済的資本，社会関係的資本，文化的資本の多次元的資本が生活習慣や健康に影響しているとの報告が注目されています．加えて，健康への悪影響が報告されている時間的資本も多次元的資本の一つと捉えることの重要性が提案されています．しかし，日本の子どものこれら 4 つの多次元的資本は憂慮すべき状況にあり，むし歯，肥満，痩身といった日本の子どもの健康課題への影響も明らかになっていません．そこで本研究は公表されているデータを利用する二次分析により，子どもの家庭の経済、文化、社会関係、時間的背景と子どもの健康状況との関連を検証することを目的としました．分析は，2015 年度(平成 27 年度)版の『学校保健統計調査年次報告書』から 6～17 歳までのむし歯被患率，肥満および痩身傾向児出現率，『社会生活統計指標−都道府県の指標 2020』から貯蓄および生活保護（経済の指標），スポーツおよび旅行・行楽（文化の指標），ボランティアおよび離婚（社会関係の指標），労働時間［男］および労働時間［女］（時間の指標）の都道府県別データを選出し，範囲（最小値-最大値）の確認と重回帰分析を行いました．その結果，むし歯における都道府県格差と，むし歯および肥満への経済，文化，社会関係，時間の影響が認められました．これらの結果から，日本の子どものむし歯の都道府県格差の解消およびむし歯、肥満の改善には，家庭の経済，文化，社会関係，時間的背景に注目し改善に向けたアプローチが必要であると考えられました．

（文責：山田　直子）